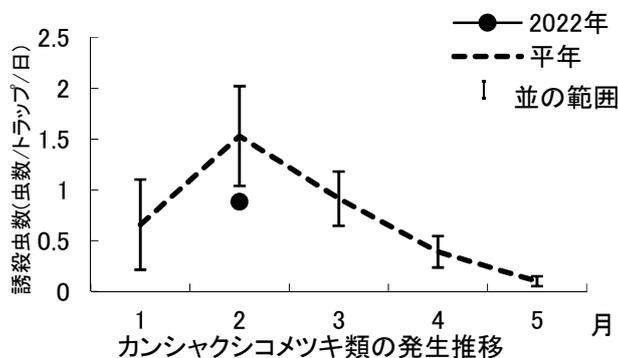


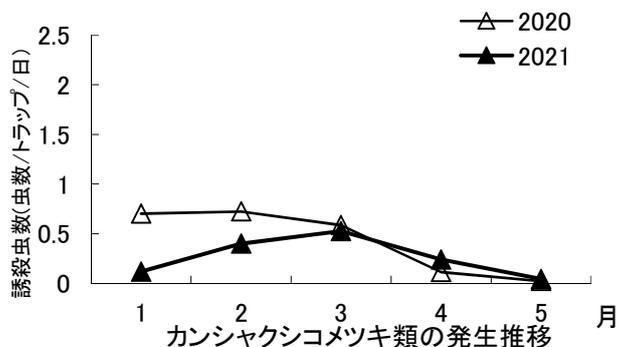
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	カンシャクシコメツキ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	2 月からの増減傾向	↓	
	3 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移

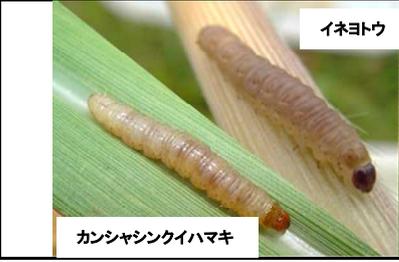


防除のポイント

- ・成虫は2月上旬～3月上旬頃から地上に出てくる。
- ・発生が多い地域では連作を避ける。
- ・植付前に植溝に粒剤を施用する。

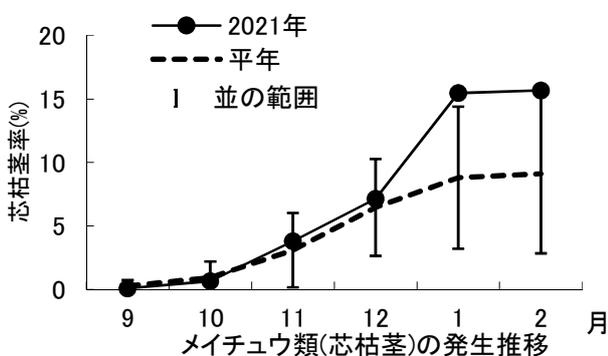


カンシャクシコメツキ類(成虫)

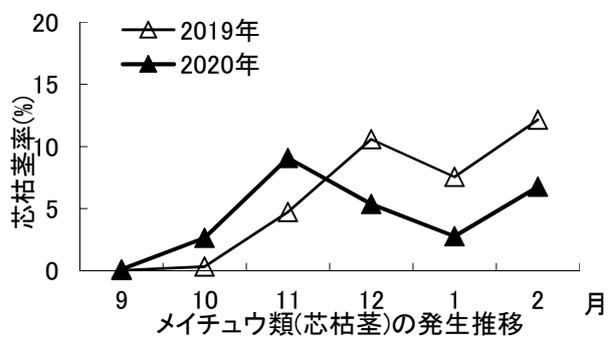
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	—	
		3 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

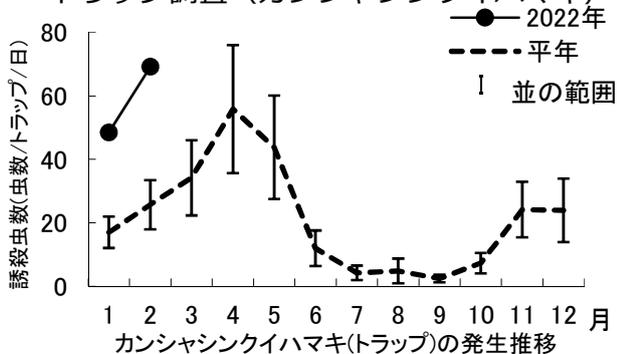
今年と平年の推移



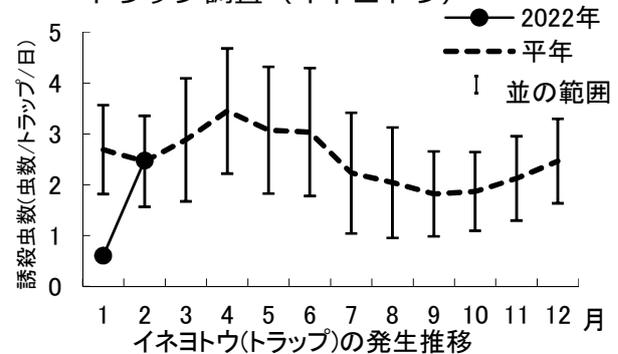
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)



トラップ調査 (イネヨトウ)



発生ほ場率：100% (平年値：72.8%)

茎内で派生したメイチュウ類のうち、57.7% (15/26頭) がカンシャシクイハマキ、42.3% (11/26頭) がイネヨトウであった。

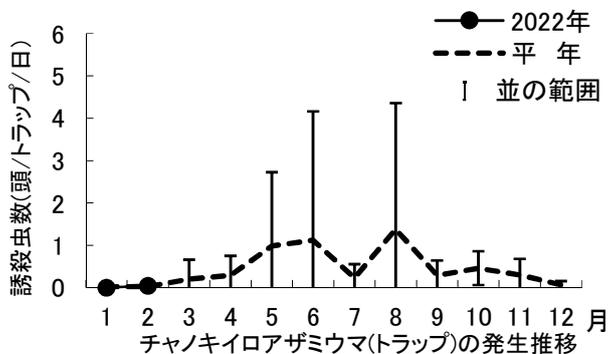
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

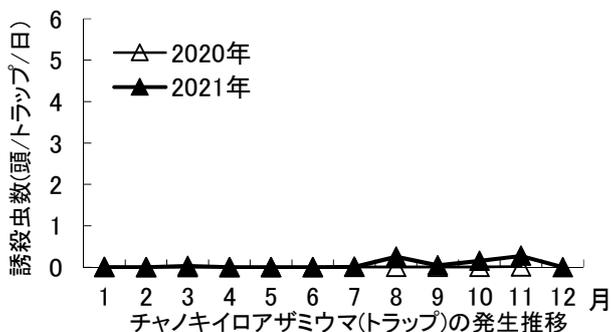
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



・トラップ調査による発生施設率：40.0%（平年値：25.0%）

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。

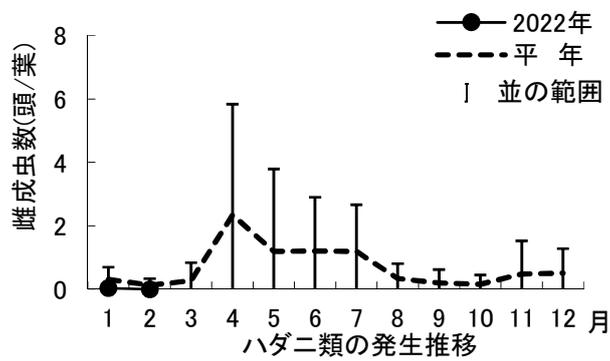


ナガエコミカンソウ

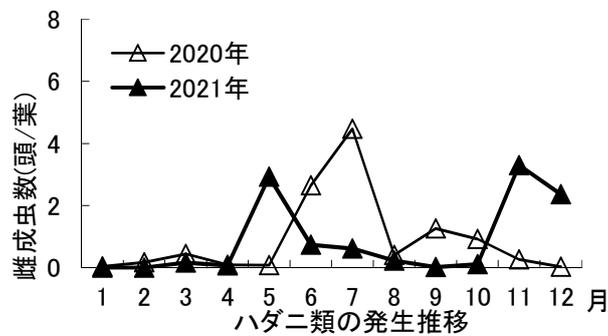
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



・発生施設率：0.0% (平年値：22.4%)

防除のポイント

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

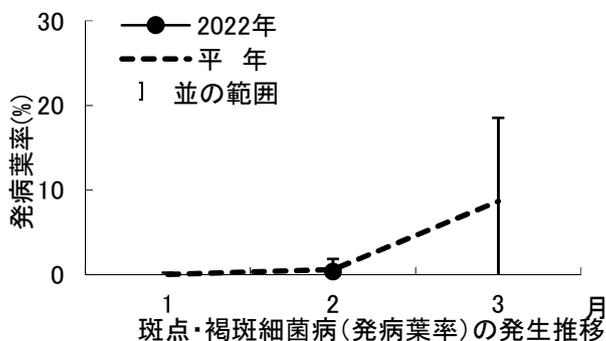


ハダニの寄生による葉のかすれ症

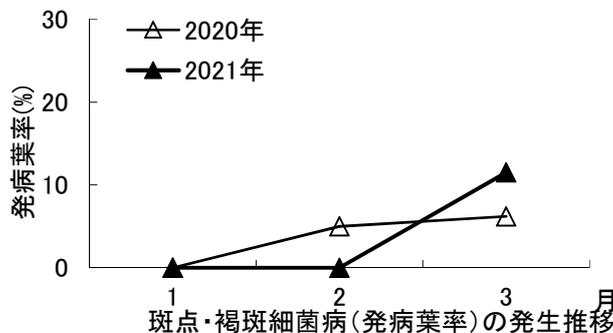
作物	かぼちゃ(2期目)	地域	宮古群島
病害虫名	細菌病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



・発生ほ場率：20.0% (平年値：7.3%)

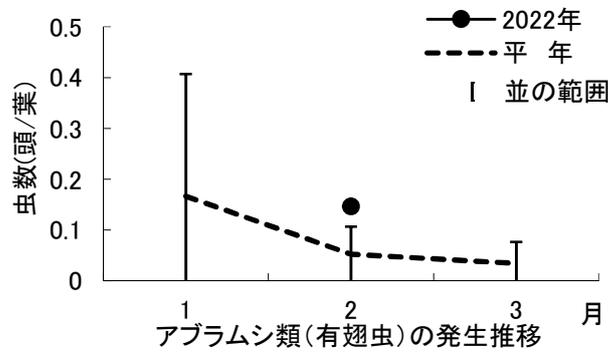
防除のポイント

- ・強風による葉すれ等の傷口から感染するため、防風垣（ソルゴーや防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前の予防散布を徹底する。

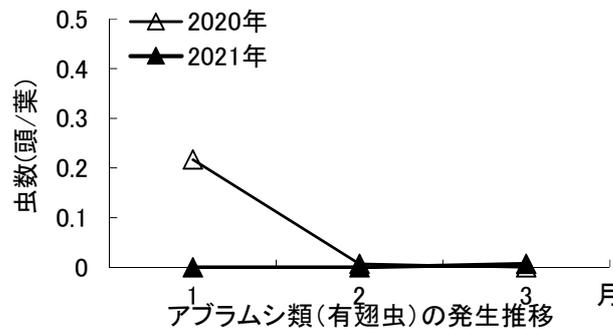
作物	かぼちゃ(2期目)	地域	宮古群島
病害虫名	① アブラムシ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	↓	
	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



・発生ほ場率：40.0% (平年値：33.3%)

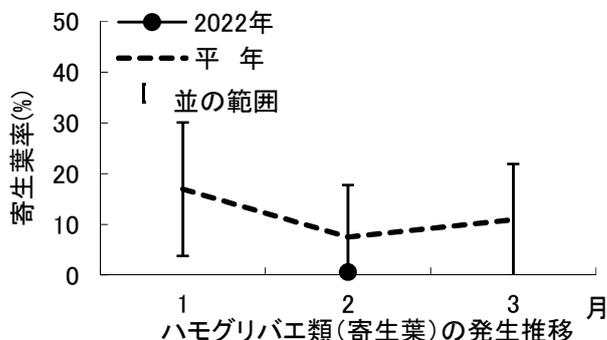
防除のポイント

- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- ・本種はウイルス病を媒介する。

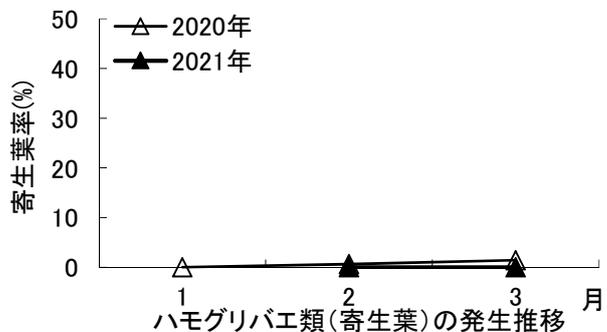
作物	かぼちゃ(2期目)	地域	宮古群島
病害虫名	② ハモグリバエ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



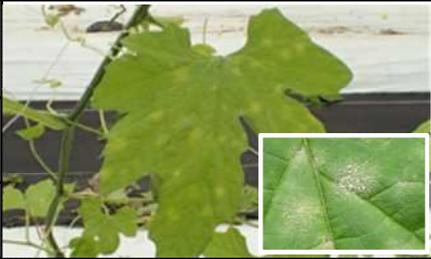
・発生ほ場率：40.0%（平年値：28.6%）

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

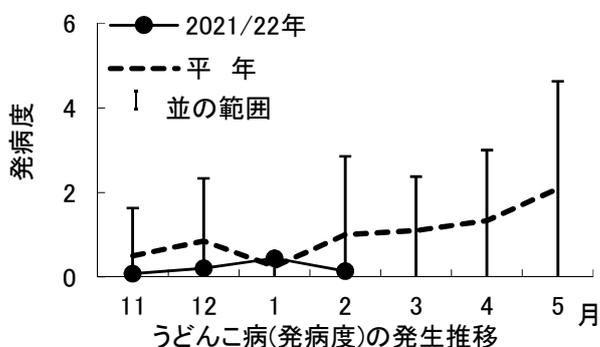


幼虫の死骸（農薬などで死亡すると黒色に変色）

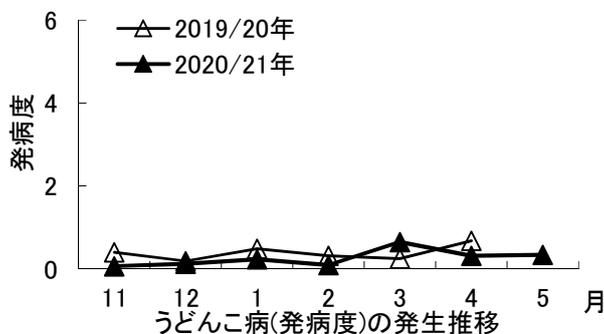
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



・発生ほ場率：60.0% (平年値：38.0%)

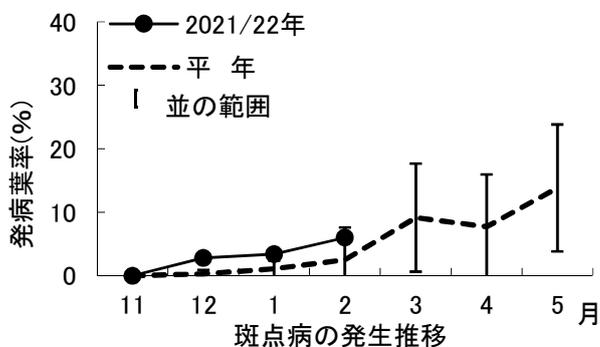
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

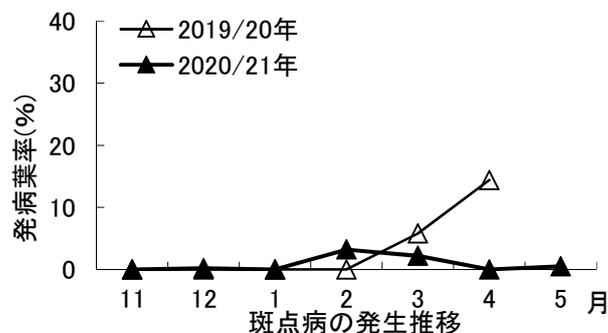
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	② 斑点病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生ほ場率：60.0% (平年値：22.0%)

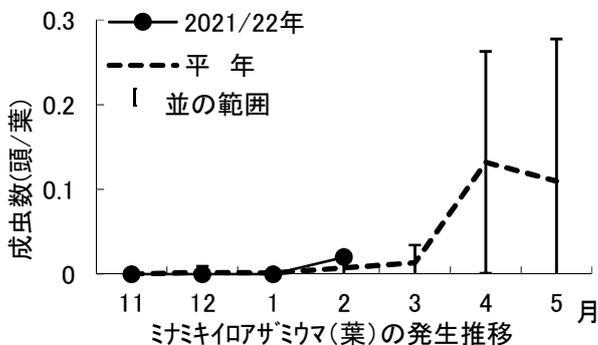
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

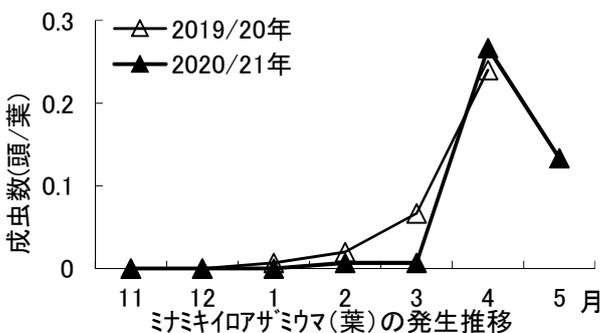
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



・発生ほ場率：20.0% (平年値：16.0%)

防除のポイント

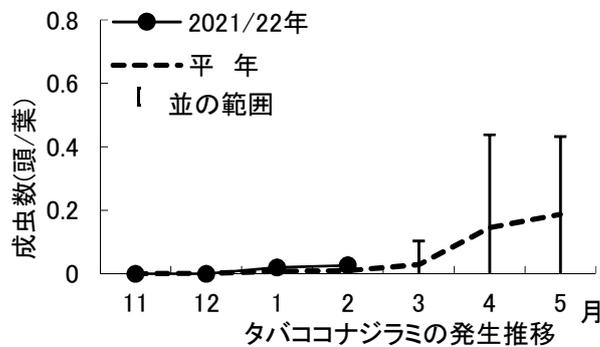
- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



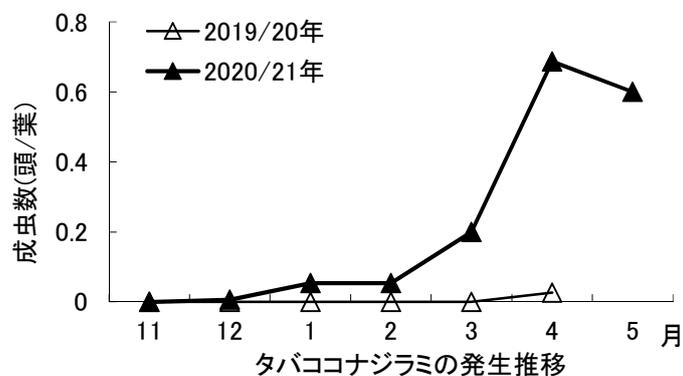
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生ほ場率：40.0% (平年値：6.0%)

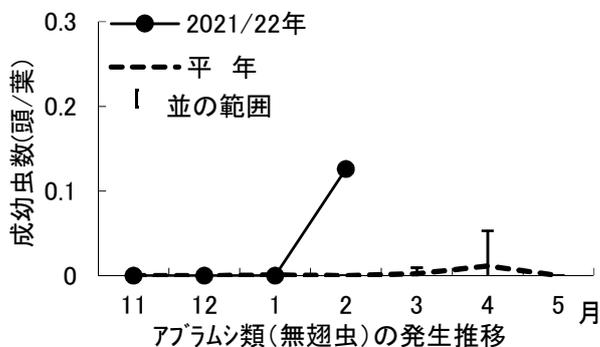
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	多	
予報	2 月からの増減傾向	→	
		3 月の発生量 (平年比)	多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移



過去 2 年の推移



- ・一部ほ場で多発生
- ・発生ほ場率：20.0% (平年値：0.0%)

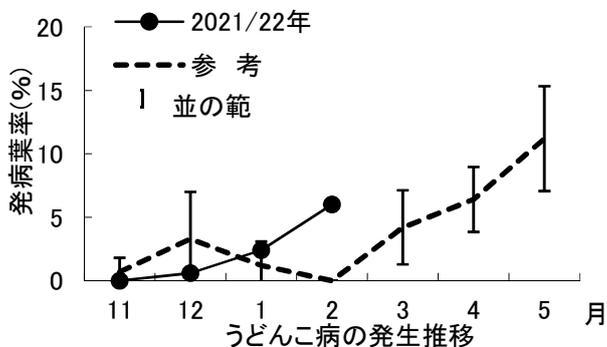
防除のポイント

- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- ・本種はウイルス病を媒介する。

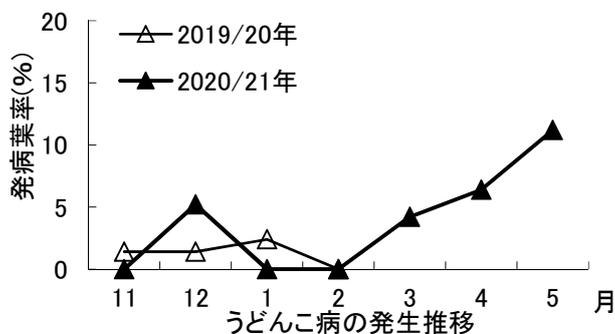
作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島	
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)			—
予報	2 月からの増減傾向			—
		3 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠				

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



- ・発生ほ場率：20.0%（過去2年間の平均：0.0%）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

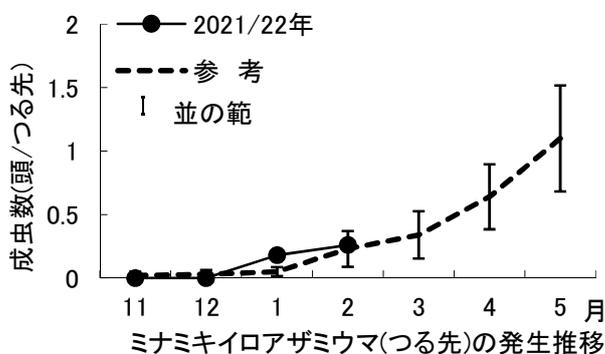
防除のポイント

- ・発生源となる不用な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・除去した葉はほ場内に放置せず、ポリ袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- ・薬剤防除は予防散布に重点をおく。

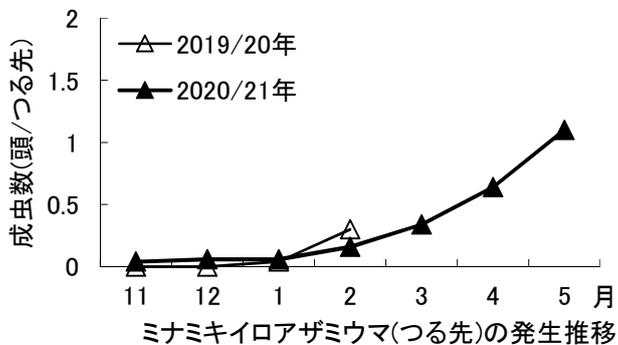
作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	—	
予報	2 月からの増減傾向	—	
		3 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

発生数の推移



過去2年間の推移



- ・発生ほ場率：40.0%（過去2年間の平均：60.0%）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

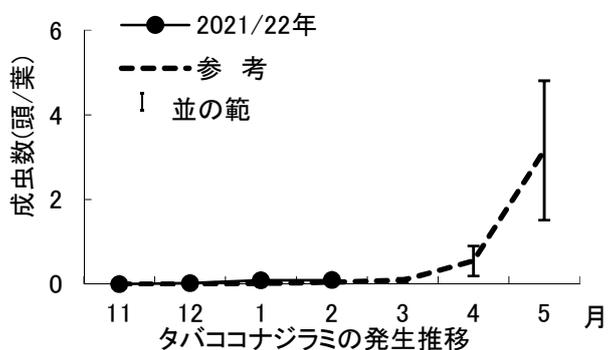
防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

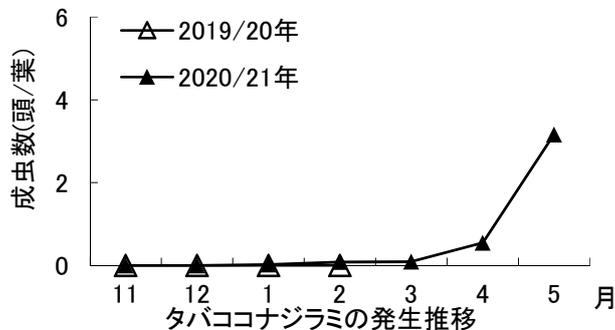
作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	—	
予報	2 月からの増減傾向	—	
		3 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

発生数の推移



過去2年間の推移



- ・発生ほ場率：20.0%（過去2年間の平均：10.0%）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

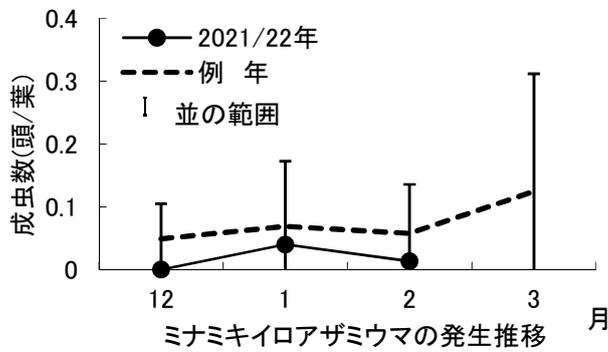
防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

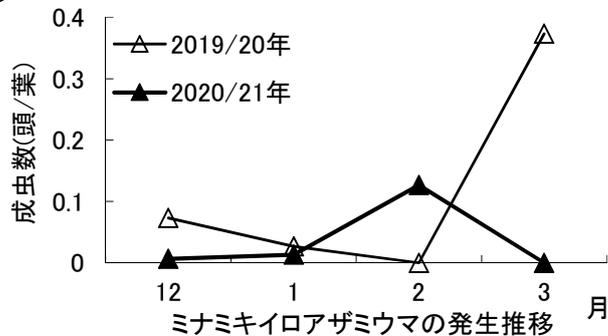
作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生ほ場率：20.0% (例年：20.0%)

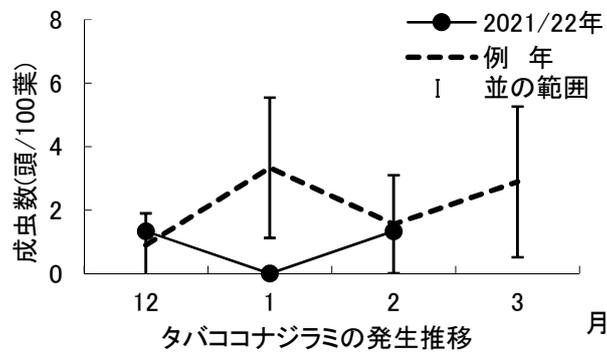
防除のポイント

- ・ほ場の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

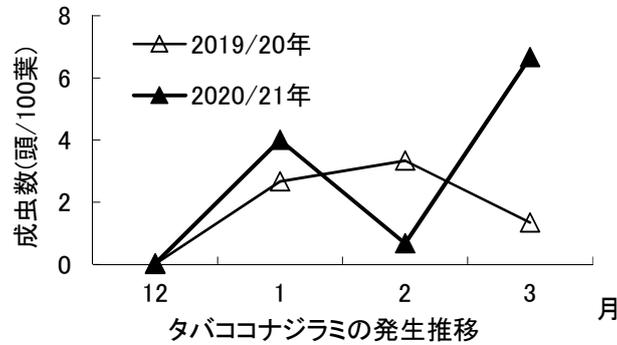
作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生ほ場率：40.0% (過去2年間：26.7%)

防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
- ・本種はさやの白化を引き起こすので、出入り口の防虫ネットを二重にするなどして、施設内への侵入を防止する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。